

授業づくり(教科別の指導：目標設定～評価編)

このリーフレットは、特別支援学校の授業づくりについて、特に「目標、評価規準の設定と学習評価」に焦点を当ててまとめたものです。学習指導要領と各学校の目指す授業をつなぐものとして、校内研修等で活用ください。

個別の指導計画との関連を確認しながら進めます

STEP 1

単元における子どもの実態把握

- ☆個別の教育支援計画や個別の指導計画を基に、障害特性や発達段階、学習状況、生活状況など個々の子どもの全体像を把握します。
- ☆学習指導要領の各教科の目標と内容を参考に、教科に関する実態を把握します。

STEP 2

年間指導計画における単元の位置付け

- ☆学習指導要領の各教科の目標と内容が、適切に取り扱われるように、年間指導計画の中での単元(題材)の位置付けを確認します。
- ☆本単元と前単元や次単元、他教科等の指導内容や行事とのつながりも確認します。

STEP 3

単元(題材)目標の設定

- ☆学習指導要領の各教科の目標と内容に基づいて、子どもの実態に応じた単元目標を設定します。知的障害のある子どもの場合、「段階」の目標や内容を実際の学習活動に照らして単元目標を設定します。

STEP 4

教材や活動の特長

- ☆単元目標を達成するための、教科の特長を踏まえ、適切な教材と活動内容を工夫し、計画を立てます。

STEP 5

評価規準の設定

- ☆単元目標が実現された具体的な姿を観点別〔知識・技能〕〔思考・判断・表現〕〔主体的に学習に取り組む態度〕に表記します。

STEP 6

指導と評価の計画(単元・本時)

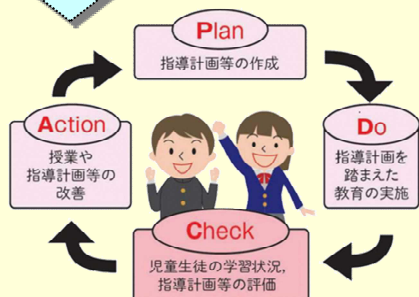
- ☆STEP 2～5を踏まえ、子どもの思考に寄り添い、思考の過程に沿って指導計画を立てます。
- ☆単元及び本時の計画の中で、評価場面や評価方法を明確にし、計画を立てましょう。

授業実践

STEP 7

評価の実施

- ☆授業での子どもの学びの姿を丁寧に見取り、子ども一人一人が評価規準の姿にせまることができたか、単元目標が達成されたかを評価し、子どもの学習改善(子どもが自分自身の目標や課題をもって学習を進めるための改善)や教師の授業改善につなげます。



ここがポイント!

日々の授業の下で子どもの学習状況を評価し、その結果を子どもの学習や教師による指導の改善や学校全体としての教育課程の改善、校務分掌を含めた組織運営等の改善に生かす中で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていきます。

あなたの授業プランをステップに沿って考えよう

(例) 国語科「読むこと」(知的障害 小学部3年生 2段階)



小学部3年生の3人で行う学習を例に考えましょう。

ここでは、「おおきなかぶ」を教材とし、劇遊びの言語活動を通して、場面の様子や登場人物の行動などをイメージし、言葉や動作で表そうとする資質・能力の育成を目指します。

STEP1

単元における子どもの実態把握

集団と個の実態を的確に把握することが大切です。学習状況においては、学習指導要領の国語科の段階の目標と内容を※照らし合わせて、「今できていること」「支援があればできること」を整理します。

※特別支援学校学習指導要領

解説各教科等編

(小学部・中学部)

国語科目標・内容一覧→



STEP2

年間指導計画における単元の位置付け

計画する単元と他単元、他教科等との関連性を確認することで、本単元のねらいを押さえます。今後発揮したい資質・能力に向けて整理します。

STEP3

単元目標の設定

今できていることを踏まえて、扱う事柄を焦点化します。この単元での場合は、「知識及び技能」としてア(り)、「思考力、判断力、表現力等」として「C読むこと」ア等、段階の目標や内容を基に、育成を目指す資質・能力の三つの柱で設定します。

集団の目標を踏まえた上で、個別の目標を設定します。

STEP4

教材や活動の特長

扱う教材(題材)や活動が、単元で目指す子どもの姿を引き出すのに適しているか検討します。

単元名は子どもが学習をイメージしやすく、その教科で何を学ぶのか分かるようにしましょう。

STEP5

評価規準の設定

単元目標に対して、3観点に沿って捉えます。一人の子どもを多角的に見ることが大切です。

どのような姿で取り組めばよいか
「主体的に学習に取り組む態度」



どのようなことが分かって
できるとよいか
「知識・技能」

例についてどのように
考えて表現すればよいか
「思考・判断・表現」

まずは、集団としての評価規準を明確にします。必要に応じて個別に設定します。

実態把握

<集団>

障害特性・発達段階	学習状況	生活状況
知的障害の3人。学習内容の見直しをもつことで、落ち着いて参加できる。	好きな活動や自信のある活動には積極的に参加する。教師の読み聞かせを、絵本の挿絵等に注目して聞くことができる。	教師や友達と関わることを好み、相手を手招きや言葉で呼ぶことができる。

<Aさん>

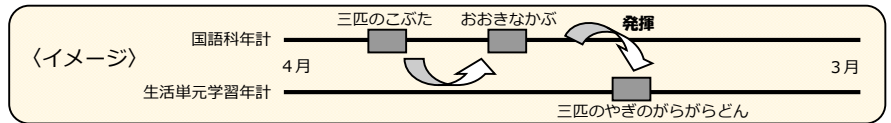
障害特性・発達段階	学習状況	生活状況
初めての学習は、教師に促されて活動に参加している。発音が不明瞭である。朝の会などで毎日聞いている言葉や身の回りの言葉であれば、意味を理解することができる。	「聞くこと・話すこと」絵本の好きなページを開いて、聞いて覚えた本文の一部を言いながら見たり、動作化して楽しんだりしている。「読むこと」昔話に出てくる言葉のもつリズムを楽しみ、絵本の好きな場面では、教師と一緒にあれば登場人物の動きなどを模倣できる。(小学部2段階)	予定の絵カードを見て内容を理解できる。教師からの言葉がけに頷いたり、返事をしたりできる。伝えたいことがあるときには、教師の手を引く等の行動で示すことが多い。

この単元で育みたい「資質・能力」

これまで、「三匹のこぶた」の劇遊びを通して、好きな場面を楽しみにしたり、せりふを声に出したりする様子が見られるようになってきた。

本単元では、読み聞かせを通して、より多くの言葉に触れ、場面の様子や登場人物の行動などをイメージし、言葉によって伝える力を育みたい。

これからの学習では、学習発表会に向けて「三匹のやぎのがらがらどん」の登場人物になったつもりで相手に伝えるように工夫してせりふを言ったり、演じたりすることで発揮したい。



単元目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
集団	絵本の読み聞かせを通して、場面の様子や登場人物の行動など、いろいろな言葉の種類に注目することができる。 小学部2段階ア(り)	「読むこと」において、絵本を見て、場面の様子や登場人物の行動などについてイメージしたことを言葉や動作で伝えることができる。 小学部2段階「C読むこと」ア	読み聞かせに親しみ、繰り返し登場人物の役を選んで、言い方や読み方を工夫して伝えようとする。
Aさん	絵本の読み聞かせを通して、話し言葉に注目し、動作や様子を表している言葉を聞いて、言葉の表す意味や行動に気付くことができる。	「読むこと」において、絵本の好きな場面で、登場人物の行動や言葉を模倣できる。	好きな登場人物の絵カードやお面を繰り返し選んだり、教師や友達の言い方をまねて、言い方を工夫して伝えようとする。

教材・活動の特長

この単元で扱う絵本は、繰り返し場面が多く、登場人物が同じ言葉をリズムカルに言うため、子どもにとって覚えやすく、見直しをもって聞くことができる。子どもが捉えやすいストーリーであることから、友達と一緒に掛け合いをしたり、動きを真似したりして遊ぶことができる。この教材を使った言語活動を通して言葉に親しみ、本文に出てくる物の名前や、動きを表す言葉を覚え、言葉によって伝える楽しさを味わうことができる。

【単元名】 「どんなふうと言おうかな、読もうかな」

単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
集団	教師の読み聞かせの言葉を聞きながら絵本の場面や登場人物の行動などに注目している。	「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動などについてイメージしたことを言葉や動作で伝えている。	繰り返し登場人物の役を選んで、言い方や読み方を工夫して伝えようとしている。

次ページ(単元の指導と評価の計画)へ






実際に、授業づくりをしていく際は、各ステップを行きつ戻りつして、考えましょう。ステップの順番を参考にしつつ、柔軟に授業構想を進めてください。

指導と評価の計画（単元）

【単元名】 「どんなふうと言おうかな、読もうかな」

【教材名】 「おおきなかぶ」 言語活動名 劇遊び

次	○学習問題 ・学習活動	○指導上の留意点 ・手立て	・評価規準〔観点〕 (評価方法)
1次 (5時間)	<p>○「どんなお話かな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな人や動物が出てきたかな。 どのような順番だったかな。 ○○は、なんて言っていたかな。 どの場面が好きかな。 順番に読んでみよう。 	<p>○教師の近くに集まって学習を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵カードを選んだり、ページサートを動かしたりして、話の内容をつかめるようにする。 <p><着目する言葉> おじいさん、おばあさん、まご、犬、ねこ、ねずみ、大きい、重い</p>	<p>・教師の読み聞かせの言葉を聞きながら絵本の場面や登場人物の行動などに注目している。 〔知識・技能〕 (絵の選択、指さし、発言、ページサートの動かし方)</p>
2次 (5時間)	<p>○「○○になりきって読もう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰になって読もうかな。 どんなふうと言っているのかな。 「○○○」って言葉はどんな読み方だとおもしろいかな。 	<p>○かぶの模型や登場人物のお面を用意し、話の面白さを味わえるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> やっている様子をビデオに撮り、互いの良さやおもしろさを伝え合えるようにする。 <p><着目する言葉> 大きい、重い、まだまだ、おや、はい(返事)、えっ(驚く)、うんとこしょどっこいしょ</p>	<p>・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動などについてイメージしたことを言葉や動作で伝えている。 〔思考・判断・表現〕 (言い方・読み方、発言、動作での表現)</p>
3次 (3時間)	<p>○「言葉のおもしろさや場面のおもしろさが伝わるかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> 劇でやってみよう。 どの役をやろうかな。 先生や上級生に見てもらおう。 	<p>○選んだ役が分かるように、登場人物のお面をかぶってせりふを言うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想が即時に伝わるように教師や上級生をお客さんと呼ぶ。 	<p>・繰り返し登場人物の役を選んで、言い方や読み方を工夫して伝えようとしている。 〔主体的に学習に取り組む態度〕 (発言、行動)</p>

子どもの思考やつぶやき

- 大好きなねこだ！ねずみも出てくる！
- 次は何か出てくるのかな。
- かぶがすごく大きい！

・○○の場面はこうやって読もうかな。

・次は○○の役をやってみたい。

・Bさんの読み方おもしろいな。

・こうやって言ったらみんなが笑ってくれた！

・場面の面白さが伝わってうれしいな。

・もっといろいろなお話を読みたいな。

単元を通して「読むこと」だけでなく、全ての領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」）を扱います。

次ページ（本時の指導）へ

STEP6

指導と評価の計画

STEP 3の単元目標を踏まえて、指導の計画（学習問題や指導上の留意点等）と評価の計画（評価規準や評価方法）を立てます。

その際、以下の点を大事にしましょう。

【指導の計画】

学習問題・学習活動

目標達成に向けた学習活動の中で子どもがもつ問いや疑問を学習問題として設定します。

子どもの気持ちの高まりを想像し、思考のつながりや深まりを大切にしながら学習活動を計画します。

指導上の留意点・手立て

指導上の留意点については、目標を達成するための配慮や工夫を記入します。

手立てについては、個への具体的支援や配慮を記入します。

【評価の計画】

目標達成の姿をどの観点で見取るのか計画を立てます。まずは、集団としての評価規準を明確にし、必要に応じて個別に考えます。

毎時間、全ての観点で評価をする必要はありません。単元を通して全ての観点で評価できるように、指導計画に沿って3観点の内容をどのように重点を絞って指導していくのかを示します。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

指導計画	評価の観点
1次	知識・技能
2次	知識・技能 思考・判断・表現
3次	主体的に学習に取り組む態度

言葉による見方・考え方



言語活動の工夫

国語科は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を育成することを目指します。対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直しながら意味付けていきます。

知的障害のある子どもの国語科では、小学校国語科のように言語活動例を示していません。国語科の目標が達成されるよう、教師が子どもの実態に応じた場面や言語活動を創意工夫して設定しましょう。

指導と評価の計画（本時）（8 / 13 時間）

【本時の目標】

- <集団> 登場人物になりきって、「大きい」が伝わるように工夫して読むことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- <Aさん> 好きな登場人物を選び、「大きい」が伝わるように教師や友達の言い方をまねて、表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

○学習問題 ・学習活動	○指導上の留意点 ・手立て	・評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>○「□□になりきって読もう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日は誰になって読んでよゆうかな。 出てくる順番に読んでみよう。 <p>・僕は、おじいさんになって、読みたい。</p> <p>・次はねずみをやってみよう。</p>	<p>○話の流れがわかるように、絵カードを並べて提示する。</p> <p>○教師も役を選び、一緒に読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何回か繰り返し、いろいろな役をできるようにする。 	<p>評価規準 <Aさん></p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな登場人物を選び、「大きい」が伝わるように教師や友達の言い方をまねて、表現している。 <p>〔思考・判断・表現〕 (発言、行動)</p>
<p>○「どうやって言ったら『大きい』って伝わるかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> どれくらい大きいのかな。 どうやって言ったら伝わるかな。 友達の言い方のいいところはどこかな。 ○○の役はこうやって言ってみよう。 	<p>・かぶの模型を使って言うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> Aさんの近くで、教師が大きな表現で見せる。 <Aさん> ビデオを一緒に見て、友達の良かった点を伝えるようにする。 登場人物によって言い方の工夫があることに気づけるようにする。 	



STEP6

指導と評価の計画（本時）

単元計画を基に、本時の目標を焦点化します。その際、個々に達成したい目標も明確にします。

目標達成に向けた子どもの学びを想定し、どの子どもが、どの場面で、どのような姿であれば目標達成と判断するか、評価規準と評価場面、評価方法、評価の観点を明らかにします。

子どもの発達を、スモールステップで考え、小さな進歩や伸びを見取るためのよりどころとして、観察可能で、測定可能な記述にすることが大切です。

STEP7

評価の実施

見取り・判断する

1時間の授業の中で、一人一人の子どもに対して評価規準と照らし合わせて子どもの学びを捉え、即座に判断してその場で手立てを講じていきます。

子どもの学習改善につなげる

教師や友達から良かった点を伝えたり、動画を見返したりすることで、子どもが学習したことを振り返り、頑張ったことや新たな目標などを見出すことができるようになります。

教師の授業改善につなげる

評価したことが、生活で発揮する力になっていくことが大切です。単元、学期、年間で評価を重ね、子どもにどのような資質・能力が身に付いたか、確認していきます。

チームで授業をつくりましょう！

TTでは、授業を構想し、計画する段階で子どもの実態や教材目標、評価規準等について話し合い、これらの関連性について、共通理解を図ることが大切です。事前・事後シートを活用し、有意義な協議を進めてください。

[事前シート](#)・[事後シート](#)



参考資料 ※資料名に下線がある資料は、クリックすると内容を確認できます



[特別支援学校
小学部・中学部
学習評価参考資料](#)
(文部科学省)



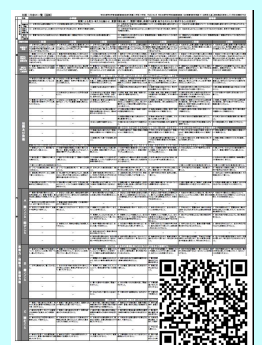
[「指導と評価の一体化」
のための学習評価に関
する参考資料](#)
(国立教育政策研究所)



知的障害のある子ども
のための国語、算数・数学
「ラーニングマップ」から
学びを創り出そう
(山元 薫・笹原雄介)



知的障害特別支援学級
担任のための授業づくり
サポートキット
「すけっと」
(国立特別支援教育総合研究所)



[国語科目標・内容一覧](#)
(総合教育センター
特別支援課編集)